

14.21

466

南洋產業
調查書分四編

南洋
錫



始



大正八年七月

南洋ノ錫

南洋產業調查書第四編

代勝寫

臺灣銀行調查課

1421-466



ノ
錫

〆
行
寄
贈
本

大正
8. 10. 16
寄贈

本冊子ハ南洋ニ於ケル錫ノ概
況ヲ記述セルモノニシテ重森
書記ヲシテ編纂セシメタルモ
ノナリ



南洋ノ錫目次

第一章	南洋錫鑛業ノ發達及各國錫產額	一
第二章	南洋ノ錫鑛床	五
一	沈積鑛床	五
二	脈脈鑛床	六
第三章	採掘及撰鑛法	六
一	採掘法	六
二	撰鑛法	八
第四章	精鑛及製鍊法	八
一	精鑛法	八
二	製鍊法	一〇
第五章	錫ノ品位種類及用途	一〇

一	品位及種類	一〇
二	用途	一一
第六章	✓ 生産費	一三
第七章	✓ 錫ノ取引	一六
一	馬來半島及暹羅	一六
二	蘭領印度	一六
第八章	✓ 相場	一七
一	海峽植民地	一七
二	蘭領印度	一九
三	倫敦	一九
四	紐育	二一
第九章	○ 馬來半島ニ於ケル錫ノ狀況	二三
一	產額	二三

二	勞力	二五
三	探錫會社	二六
四	收支計算	二九
五	貿易	三一
六	馬來半島ニ於ケル邦人ノ錫鑛業	三五
第十章	○ 蘭領印度ニ於ケル錫ノ狀況	三六
一	產地及探錫會社	三六
二	收支計算	三八
三	貿易	三九
第十一章	○ 暹羅ニ於ケル錫ノ狀況	四二
一	產地及探錫會社	四二
二	收支計算	四五
三	貿易	四六

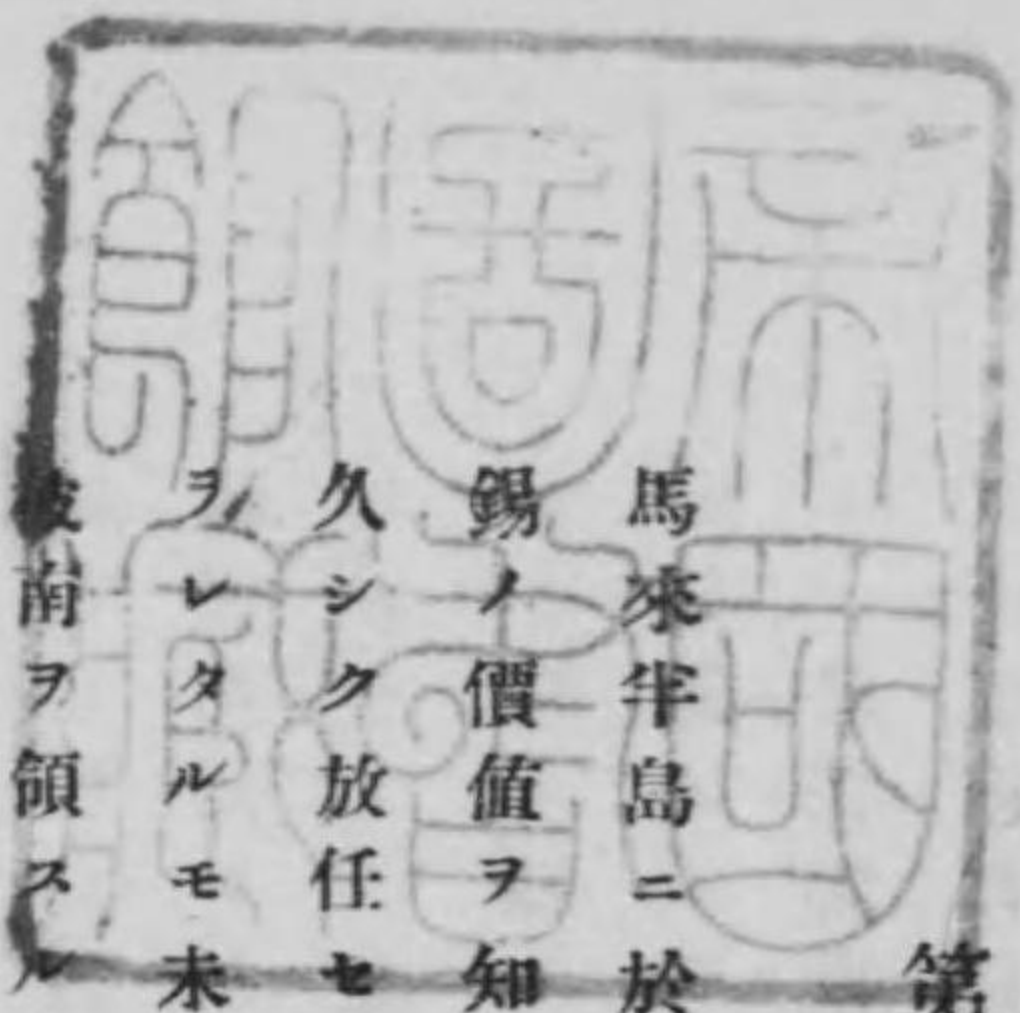
○四 試掘及採掘……………四八

附

本邦錫產額及輸入……………五〇

南洋ノ錫

第一章 南洋錫鑛業ノ發達及各國錫產額



馬來半島ニ於ケル錫鑛ハ數百年前馬來人ニ依リテ發見セラレタリト雖未開人ハ錫ノ價值ヲ知ラサルノミナラス採鑛冶金術ニモ通セサリシヲ以テ同地ノ錫鑛ハ久シク放任セラレタリ(尤モ支那勞働者ニ依リ極メテ幼稚ナル方法ヲ以テ採錫セラレタルモ未タ廣ク世人ノ注目ヲ惹クニ至ラス)然ルニ一七八六年東印度會社カ彼南ヲ領スルニ及ヒ同社陸軍大尉キード氏カカルカツタ總督ニ宛タル錫ニ關スル調査報告書ニ依リテ同地ノ錫ハ漸ク世人ニ紹介セラル、ニ至レリ然レトモ氏ハ尙馬來諸土侯ニシテ土人ヨリ錫ヲ貢稅トシテ上納セシムルニ非サレハ採鑛ニ従事スル者ナカルヘシト言ヘリ

如斯狀況ナリシヲ以テ未タ採錫ノ機運ニ至ラサリシカ一八一四年造林開拓者トシテ有名ナル「ダビット」ブローン氏ハ當局ニ斂林ノ開墾採錫ヲ出願シ當局亦斯業

獎勵方針ノ下ニ無稅採錫ヲ許可セルニ依リテ一時消絶セントセシ採錫問題ハ茲ニ再燃スルニ至レリ尋テ一八一八年當局ハセラングール州ノサルタン族ニ對シ年々定量ノ錫ヲ東印度會社ニ供給スルコトヲ命シ銳意採錫業ノ發達ヲ促セリ爾來同半島ノ錫鑛業ハ支那人ノ經營ニ依リテ漸次隆盛ニ赴キシカ殊ニ一八九七年「ネグリセムピラン」州ニ始メテ新規模ノ「セレンバン」チンマイニング會社資本金二四〇〇〇磅設立セラレテヨリ漸次外人經營ノ會社増加スルニ至レリ

蘭領印度ニ於ケル採錫業ヲ見ルニ一七四七年時ノ總督「インボフ」ノ時代ニ於テ既ニ「ピリトン」及「パンカ島」ニ錫ノ存在ヲ確認シ一七五五年政府ハ當時ノ領主「バレンパン」王ニ命シテ兩島產錫ノ全部ヲ東印度會社ニ供給セシムルト共ニ一方ニ於テハ錫鑛ノ調査ヲ爲シ専ラ產量ノ増加ヲ計リタルカ其ノ後一八五二年政府ハ「ピリトン」島採錫權ヲ「ピリトン」會社ニ與ヘ越ヘテ一八九二年ニハ其ノ採掘期間ヲ更ニ三十五箇年延長シ同時ニ該契約ニ依リテ會社ハ採錫利益ノ八分ノ五ヲ享有スルコト、ナレリト謂フ尤モ農商務省編纂「南洋」ノ產業及其ノ富源ニ依レハ「ピリトン」會社ハ一八六〇年資本金五百萬盾ヲ以テ設立セラレ本店ヲ和蘭海牙ニ置キ「ピリ

二

トン」島產錫ノ八分ノ五ヲ政府ニ上納スル特約ノ下ニ採掘權ヲ得タリト記載アリ又「リオ」群島中ノ「シンケツ」島ニ於テハ一八八七年ニ採錫ノ目的ヲ以テ「シンケツ」會社（資本金百五十萬盾）起リ同群島ノ「リンガ」リオ王侯ヨリ十一萬六千六百五十「パウ」ノ租借權ヲ獲得シ更ニ一九〇七年ニハ蘭領印度政府ニ毎年利益ノ四分ヲ特許稅トシテ納附スヘキ條件ノ下ニ二十六萬「パウ」ノ海底租借權ヲモ得タリ尙「パンカ島」ノ採錫業ハ久シク民間ノ經營ニ委セラレシモ一九〇七年ニ至リ遂ニ官營ニ移サレ組織ノ改善ト共ニ成績著シク舉リ一八九八年頃ノ政府收益ハ千七百萬盾内外ナリシモノ一九一一年ニハ政府收益豫算ハ二千二百萬盾ヲ計上スルニ至レリ

斯ノ如ニシテ南洋ノ錫鑛ハ古キ歴史ヲ有スレトモ採錫業ハ土人又ハ支那人ニ放任セラレ錫ノ產量少ナカリシカ十九世紀ニ入り南洋錫鑛ノ價值一般ニ認めラレ當局亦獎勵ヲ怠ラサリシヲ以テ遂ニ世界第一ノ錫產地タリシ英國「コンウオール」ヲ凌駕スルニ至レリ

今「マイニング」インダストリニ依リ世界ニ於ケル錫產額ヲ國別ニ表示スレハ左ノ

三

如シ

產地	一九一四年	一九一五年	一九一六年
馬來半島	四九、〇四二	四六、七六六	四三、八七〇
南亞米利加	二二、三五二	二一、七九四	二一、二四五
蘭領印度	一九、九二〇	一九、五二二	一九、五四八
暹羅	六、八〇〇	七、八〇〇	八、九九八
コンウォール	五、〇五六	四、九六八	四、五〇〇
支那	六、六八二	七、四〇五	不詳
亞弗利加	四、五一一	四、五五五	五、〇七五
亞細亞	一、五四四	二、三二二	五、〇〇〇
南亞弗利加	二、〇九四	二、〇八九	二、〇〇三
合計	二八、〇一一	二七、二二二	二〇、一三九

即チ本表ニ依ルトキハ世界ニ於ケル錫總產額ハ十一萬噸乃至十二萬噸ト認ムヘク其ノ内馬來半島蘭領印度及暹羅ノ生産額ハ常ニ七萬噸以上ヲ占メ總生産額ニ對スル割合ヨリ觀察スルトキハ常ニ六割強ヲ占ムルモノナリ以テ南洋ノ錫カ世界錫界ニ於テ如何ナル地位ヲ占ムルカラ知ルヘク從テ其ノ產額ノ多少ハ錫市場

ニ非常ノ影響ヲ與フルコト勿論ナリ

第二章 南洋ノ錫鑛床

南洋ノ錫鑛床ニ沈積及鑛脈ノ二アリ就中沈積鑛床ハ分布廣ク探掘價值大ナリ之ニ反シ鑛脈ハ鑛質劣リ且ツ產量極メテ少ナク現今僅ニ蘭領ピリトン島暹羅及馬來半島ノセラゴン州等ノ一局部ニ於テ探掘セラル、ニ過キス今之等鑛床ノ成因及特性ニ付キテ概述スレハ次ノ如シ

一 沈積鑛床

沈積鑛床ハ錫鑛脈其ノ他ノ鑛床カ風化崩解セラレタル結果自然ノ淘汰作用ニ依リテ錫ノ沖積シタルモノナリ故ニ多クノ場合ニ於テ鑛床ハ河岸海濱ノ沖積層又ハ河岸ノ段丘ヲ形成スル砂礫層淺砂鑛床中ニ見出サル而シテ此ノ鑛床ヨリ產出スル錫石ハ(酸化錫)砂錫又ハ水錫ト稱セラレ世界全錫產額ノ四分ノ三ハ此ノ種ニ屬ス其ノ理學的性質ハ硬度六五比重七色合ハ褐色黑色又ハ赤色ヲ呈シ條痕ハ極メテ薄キ褐色ヲ呈ス又錫石ト共産スル鑛物ハ磁鐵鑛チタン鐵鑛ウオルフラム柘

榴石ニシテ時ニ貴金屬ヲ伴フコトアリ

二、鑛脈鑛床

鑛脈鑛床ハ沈積鑛床ノ原鑛床ニシテ其ノ特性ハ多クノ場合ニ於テ酸性ノ火成岩ト密接ノ關係ヲ有スル點ニ在リ即チ殆ント總テノ鑛脈ハ花崗岩ノ近ク或ハ花崗岩中ニ産出ス換言スレハ花崗岩ハ其ノ周圍ノ岩石ヲ貫クモノトス而シテ其ノ生成ハ后火成作用ニ依ルモノニシテ大古代ヨリ第三紀ノ終リニ於テ行ハレ一定ノ地質時代ヲ有セス鑛脈ヲ成ス主タル金屬ハ錫石、ウオルフラム、毒砂、自然錫、輝水鉛等ニシテ脈石ニハ石英、シリヤ、雲母ヲ普通トシ正長石、黃玉、電氣石、螢石、磷灰石ヲ伴フ

第三章 採掘及鑛法

一、採掘法

砂錫ノ採掘ハ最簡單ニシテ規模小ナルモノニ在リテハ地表ノ草木ヲ切拂ヒタル後鶴嘴若クハ鍬ヲ以テ穴ヲ穿ツコト池ヲ掘ルカ如シ而シテ鑛層ニ達スル迄ノ深

サハ產地ニ依リテ一律ニ論スルヲ得ス馬來半島ノ淺砂鑛床ハ僅々三四尺ナレトモ普通ハ十呎乃至三十呎ニテ鑛層ニ達ス概シテ地表ニ近キ鑛層ハ錫石ニ乏シク深サヲ増スニ從ヒテ漸次良質ノ錫鑛ヲ得ルモノナリ蘭領印度ニ於テ馬來半島ト略同一ナリ是蓋シ蘭領印度ト馬來半島トハ其ノ地質ヲ同一ニスルカ故ナリ而シテ鑛層ハ變化甚シク稀ニ數米突ニ達スルモノアレトモ普通馬來半島ニテハ四乃至六吋、バンカ島ニテハ一粉乃至四粉ナルカ如シ鑛層ノ土砂ハ色丹ノ如ク其中ニ結晶形又ハ纖維狀トナリテ錫石ノ存在スルカ故ニ之ヲ掘取リ土籠ニ入レテ二人ノ苦力ヲシテ地上ニ搬出セシム然レトモ大規模ニ採錫ヲ爲シツ、アル會社ハ左ノ三法ノ何レカヲ採用シ居レリ

一、「ハイドリツクポンプ」裝置

二、「ドレッツヂャー」裝置

三、「インクライン」裝置

一般ニ濠洲人ハ「ドレッツヂャー」(浚渫機)ヲ用キ支那人ハ水力ヲ利用スル「ドレヂャー」ヲ使用スルカ如シ

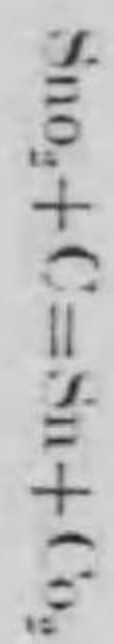
二 撰鑛法

採掘シタル粗鑛ハ之ヲ幅二呎長サ八呎ノ木製ノ樋ニ移シ其ノ上部ニ設ケラレタル堰水ヲ開キテ之ニ注キ同時ニ鐵製熊手様ノモノヲ以テ粗錫ヲ攪拌スル時ハ土砂ハ押流サル、モ錫ハ其ノ比重砂ノ約二倍ニ相當スルヲ以テ其ノ樋中ニ殘留スヘシ此ノ操作ヲ三四回反覆シ其ノ混濁ヲ生セサルニ至リタルトキ之ヲ仕上場ニ運ヒ熟練セル職工ヲシテ更ニ盪中ニテ清洗セシム斯クシテ得タル錫砂ハ約七割ノ錫分ヲ含ムモノニシテ更ニ鎔鑛所ニ運ヒ精鑛ト爲ス

第四章 精鑛及製鍊法

一 精鑛法

精鑛ノ目的ハ酸化錫ヲ錫ト爲シ且ツ種々ノ不純物ヲ除クモノニシテ原理ハ還元作用ニ依リ比重及熔點ノ差等ノ理化學的性質ヲ利用シタルモノニシテ主ナル化學的變化ハ左ノ如シ



次ニ操作及裝置ノ大要ニ付キテ見ルニ先ツ支那式精鑛法ニテハ鎔鑛所ニ深サ三呎周圍二十二呎ノ鐵製鎔鑛爐アリテ之ニ絶エス一定セル空氣ヲ輸送スヘキ鞴仕掛アリ鞴ノ大サハ直徑四吋長サ七呎ノ喇叭形ノ木製ニシテ其ノ「ピストン」ハ小ニシテ端ハ革ニテ被ハレ鞴ノ兩端ニハ瓣ヲ有シ尙中央ニハ竹製ノ管アリテ鎔鑛爐ニ通スル裝置ナリ而シテ鎔鑛爐内ニハ「コークス」ヲ二三割入レ良ク燃燒スルニ至レハ其ノ上部ヨリ約二百封度ノ錫鑛ヲ入レ爐内ニ於テ不完全燃燒ヲ行ハシム然ルトキハ暫時ニシテ錫鑛ハ鎔解シ其ノ比重大ナルカ故ニ沈下シ黑色ニシテ且ツ錫色ノ斑點ヲ有スル金滓ハ上昇分離スヘシ而シテ錫分ノ全部抽出セル頃ヲ見計ヒ爐ノ底部ノ穴ヨリ流出セシメ一擔鑄型(一擔入)ニ注キテ挺ト爲ス此ノ方法ニ依ルモノハ品位九九六六〇ノ含錫ニ達セシムルコトヲ得尤モ現今南洋ニ於テ廣ク使用セラレツ、アルモノハ「ヴランディレン」爐ト稱スル直立爐ニシテ尙此ノ外世界第一ノ錫冶金場タル新嘉坡「ストリート」ト「レヂング」會社ニテハ反射爐ヲ採用セリ其ノ何レノ方法タルニ拘ラス還元作用ニ依リテ得タルモノヲ精鑛粗錫又ハ荒錫ト稱シ新嘉坡ニ於ケル精鑛分析ノ結果ハ錫九九七六、鉛〇〇七、鐵〇〇二銅及

砒素〇・一四ヲ含有ス

二製鍊法

前述ノ如ク荒錫ハ尙幾多ノ金屬及非金屬ヲ含有スルヲ以テ更ニ製鍊スルノ要アリ
 製鍊法ニハ熔融離法及生木精製ノ二法アリ
 熔融離法ハ鐵板ノ上ニ粘土ヲ塗り其ノ上ニ灼熱セル木炭ヲ置キ此ヲ直立爐中ニ傾ケ荒錫ヲ其ノ上ニ流セハ不潔物ハ炭間ニ殘留シ純粹ナル錫ハ流下スヘシ從テ之ヲ反覆スレハ遂ニ精錫タラシムルコトヲ得生木精製ハ反射爐ニテ熔離シ次ニ銅精製ノ如ク生木ヲ熔爐中ニ入レテ不潔分ヲ除去スルモノトス新嘉坡ニ於テハ專ラ後法ニ依ルカ如シ

第五章 錫ノ品位種類及用途

一品位及種類

錫ハ同一產地ノモノト雖製鍊ノ巧拙ニ依リテ品位ニ多少ノ差違ヲ生スルモノナ

ルカ就中產地ニ依リテ支配ヲ受クルコト最大ナリ即チ左表ニ見ルカ如ク南洋產ノ錫ハ品位優良ナルモ「ボリビヤ」及支那產ノ錫ハ著シク劣等ナリ(日本會誌)

元	素	關領印度及馬來半島產	濠洲產	南米產	支那產	英國產(普通品)	英國產(精製品)
錫	白九九・八一 至九九・九二	白九九・九〇 至九九・九八	九三・〇〇	白九九・五 至九九・九	九九・二	九九・二	九九・九
アンチモニー	〇・〇一	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇二	〇・一五	〇・〇四
砒	〇・〇四	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇五
砒素	〇・〇四	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇五
銅	〇・〇一	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇一	〇・〇八	〇・〇一五
鐵	〇・〇三	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇九	〇・〇八	〇・〇一五
鉛	〇・〇〇	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇三	〇・〇四	〇・〇〇一
亞鉛	〇・〇〇	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇三	〇・〇四	〇・〇〇一

斯ノ如ク產地ニ依リ品位ヲ異ニスレトモ商業上ニ於テハ左ノ如キ稱呼ト品位ニ依リテ極メテ簡單ニ取引セラル(南洋時報)

稱呼

含錫量

ストレート錫(馬來半島「ビットン」及「シンクツア」島、暹羅產)

九九・八九%

バンカ	錫(バンカ島産)	九九・八九%
香港第一	錫(支那産)	九九・〇〇%
香港第二	錫(同上)	九六・〇〇%
ビレーマウント	錫(濠洲産)	九九・〇〇%
ラムプ及フラツグ	錫(英國産)	九九・〇〇%

二用 途

錫ノ主要ナル用途ハ管汽罐栓等ニシテ被覆用トシテハ「ブリツキ板錫、鑛金、錫箔」トシ尙合金トシテハ砲金、減摩合金、白鐵、ブリタニヤメタル、活字用地金等ニ使用セラレ其ノ他錫ノ鹽類及顔料等其ノ用途極メテ廣シ次ニ錫中ノ不純物ハ管及「ブリキ」管等ノ製造ニハ著シク有害ニシテ殊ニ其ノ流動性ヲ害シ被覆用トシテハ錫ノ消費ヲ著シク多クシ白鐵ヲ堅カラシメ合金ノ性質ヲ害シ其ノ外觀ヲ汚損セシムルノミナラス合金ノ熔融點ヲ上昇セシメ又一方ニハ延性ヲ減シ電氣ノ局部作用ヲ起サシムル等其ノ缺點著シキモノアリ然レハ用途ニ依リテ錫ノ選擇ヲ要スヘキハ明ニシテ通常鋳力用トシテハ「ストレート」錫及「バンカ」錫ノ良質ノモノニ限リ半

田ニハ香港第一、第三及「ラムプ」フラツグヲ用キ「バビット」ベアーリング及「ブリタニヤ」用ニハ左程品質ヲ選ハサルカ故ニ支那、濠洲、英國産錫ヲ以テ足レリトス終リニ用途ノ何タルヲ問ハス錫ノ不純物ハ如何ナル程度迄許容シ得ルカニ付「エ」ルアツヂツク「氏」ノ所説ハ左ノ如シ(日本鑛業會誌)

鉛	許容程度	〇・〇四
銅		〇・〇二
鐵		〇・五〇
砒素		〇・〇五
アンチモニー		〇・〇二
亞鉛		〇・五〇

第六章 生産費

錫ノ生産費ヲ支配スル原因ハ種々アリ鑛質ノ良否、鑛ノ方法及巧拙、規模ノ大小

等ハ其ノ主ナルモノナリ鑛質ハ鑛床ニ依リテ異ナルハ勿論産地ニ依リテ差アル
コト前述ノ如シ

今馬來半島ニ於ケル採錫會社ノ作業成績ニ付キテ鑛質及採掘費ノ一般ヲ示サン
(マイニウランゲ)

社名	一九一六年		一九一七年	
	積碼當產出量	同上生産費	積碼當產出量	同上生産費
チエンドリアンガチンドレザンガ	〇・七二〇	三・五	〇・五三〇	三・七
イボーチン、ドレザンガ	〇・八一五	四・二	〇・八〇〇	四・〇
カムニンガ、ドレザンガ	一・二〇〇	三・〇	〇・八九〇	四・〇
マラヤン、チン、ドレザンガ	〇・五一〇	三・一	〇・四六〇	四・一
平均	〇・八一	三・五	〇・七三四	三・九

之ニ依リテ見レハ馬來半島ノ積碼當平均產出量ハ一九一六年ニ於テハ〇・八一
封度ニシテ一九一七年ニハ〇・七三四封度ナリ而シテ其ノ生産費ハ一九一六年ハ
三五片一九一七年ハ三九片ナリ從テ一封度當生産費ニ換算スルトキハ一九一六
年ハ四三二片ニシテ一九一七年ハ五三三片トナリ其ノ差一〇一片平均四八三片

トナル

次ニ暹羅ニ於ケル二三ノ會社ニ付其ノ生産費ヲ見ルニ左ノ如シ(一九一八年發行マイ
ニンガ、マニウランゲ)

社名	一九一八年		一九一七年	
	積碼當產出量	同上生産費	積碼當產出量	同上生産費
サイミスチン	〇・八	五・一	一・〇	八・〇
シンヤケート	二・〇	四・六	一・二七	五・九
平均	一・四	四・八五	一・一三	六・九五

即チ積碼當產出量ハ一二七封度ニシテ其ノ生産費ハ五片九ナリ從テ一封度ニ對
スル生産費ハ四六五片トナル之ヲ馬來半島ニ於ケル最近二箇年ノ平均成績ニ比
スルトキハ積碼當產出量ニ於テ〇・四九七封度ヲ増加シ封度當生産費ハ〇・一八片
ヲ節減シ得ヘク更ニ顯當ニツキテ見ルニ二磅五志三片ヲ低下ナラシメ得ルヲ以
テ概シテ採錫業ハ暹羅ニ於テ有望ナリト言フヲ得ヘシ
蘭領印度ノ生産費ニ付テハ調査ノ材料ヲ缺クカ故ニ正確ナル結論ヲ下シ難シト
雖鑛床ノ状態採錫方法等ヨリ推斷スレハ蓋シ馬來半島及暹羅ノ場合ニ近キモノ
ト見テ誤ナカルヘシ

第七章 錫ノ取引

一六

一 馬來半島及暹羅

馬來半島及暹羅ニ於テハ探錫會社ニ於テ製シタル粗製錫ハ製鍊業者ニ賣渡サル
モノトス製鍊業者ハ錫探掘地中停車場ノ存スル所ニ出張所ヲ設ケ錫分ヲ秤量シ
テ當時ノ相場ニ運搬費輸出税(一) パン州ハ從價税ヲ加算シテ取引ノ標準ト爲スモ
ノトス而シテ相場ハ日々入電スル倫敦相場ヲ基トシテ午前十一時ヨリ午後一時
迄新嘉坡「ストリート」ト「レーヂング」商會及彼南ノ「イエスタンスメルティング」商會
(此ノ兩會社ハ最大ナリ)ニテ輸出商トノ間ニ賣買手合アリ其ノ出合値段ヲ以テ當日ノ公定相
場ト爲ス若シ其ノ出合ハサルトキハ買手ノ附値段ヲ以テ當日ノ公定相場ト爲ス
但シ賣手ハ該相場ヨリ二十五仙高ニ非サレハ取引ヲ爲サス受渡ハ取引成立後二
箇月内ニ賣手ノ都合良キトキニ行ヒ支拂ハ現金トス現物ノ買附ヲ爲サントセハ
公定相場ヨリ一弗高ト覺悟セサルヘカラス

二 蘭領印度

「パンカ」錫ハ殆ント全部和蘭ニ於テ競賣ニ依リ賣捌カル此ノ競賣ハ隔月ニアムス
テルダム及「ロツテルダム」ニ於テ行ハレ尙少量ノ錫ハ「パタビヤ」ニ於テ競賣ニ附ス
又別ニ和蘭本國及東印度政府ノ用ニ供セラル、モノハ蘭領印度ノ仲買人タル
Nederlandsche Mandel Maatschappijノ手ニ依リテ積出サレ賣捌セラル、モノニシテ契
約ニヨリテ「ロツテルダム」ロイド及「Maatschappij Nederland」等ノ汽船會社ノ手ニ依リ
テ運送セラル尙「ピリトン」島錫鑛ノ大半及「シンケツブ」島錫鑛ノ全部ハ新嘉坡ニ輸
出シ製鍊セラル、ヲ以テ同地ニ於テ處分セラル

第八章 相場

錫產地ノ相場及世界的市場ニ於ケル市價ノ趨勢ハ次ノ如シ

一 海峽植民地

海峽植民地ニ於ケル最近三箇年ノ擔當錫價ハ一九一六年平均ハ八八弗二六ナリ
シモ一九一七年ニハ一〇九弗一二トナリ一九一八年ニハ更ニ暴騰シテ一五二弗
七三トナレリ次ニ一箇年間ニ於ケル市價ノ變動ヲ見ルニ毎年一月ハ最低ヲ示シ

漸次高價トナリ五月ニハ最上値トナリ六月以降ハ稍低落シテ十二月ニハ一、二月
 頃ト始ント同様ノ市價ヲ保ツモノナリ但シ一九一七年ノ十一月乃至十二月ニ於
 テ却テ暴騰セルハ一九一八年ニ於テ著シキ高値ヲ示ス前兆ナリシカ如シ
 今一九一六年乃至一九一八年各月別相場ヲ示セハ左ノ如シ (南洋經濟時報)

月別	一九一六年		一九一七年		一九一八年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	八八・〇〇	八二・二五	九二・〇〇	六六・二二	一三八・五〇	一一二・五〇
二月	九一・六二	八六・五〇	九五・七五	九一・五〇	一四九・五〇	一三七・〇〇
三月	九五・五〇	八九・〇〇	一〇三・七五	九四・五〇	一五三・五〇	一四七・〇〇
四月	九七・七五	九三・七五	一〇五・五〇	一〇一・〇〇	一七〇・〇〇	一四九・五〇
五月	九八・五〇	九一・五五	一九七・七五	一〇五・七五	一八〇・五〇	一七一・〇〇
六月	九一・二五	八二・七五	一一三・二五	一〇三・五〇	一六五・五〇	一五三・〇〇
七月	八五・四〇	八〇・二五	一一二・五〇	一〇六・〇〇	一七八・〇〇	一五七・〇〇
八月	八四・八五	八一・〇〇	一一三・七五	一〇九・五〇	一八四・五〇	一五九・〇〇
九月	八四・五〇	八一・二五	一一三・二五	一一〇・三七	一五八・〇〇	一四九・二二
十月	八九・三五	八四・六二	一一五・五〇	一一〇・五〇	一五〇・〇〇	一四九・二二
十一月	九三・六二	八七・七〇	一二三・五〇	一一八・二二	一五〇・〇〇	一四八・八〇
十二月	九二・六五	八三・五〇	一二〇・五〇	一一五・〇〇	一二五・七五	一九五・〇〇
平均	九一・一七	八五・三四	一一三・二五	一〇四・九九	一五八・六五	一四六・八〇

二 蘭領印度

蘭領印度ニ於ケル錫擔當相場ヲ示セハ左ノ如シ (日本礦業會誌)

相場ノ高低	一九一五年		一九一六年		一九一七年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
最	一〇〇	一〇〇	一〇六	一〇六	一一二〇	一一二〇
最	一一〇	一一〇	一一三	一一三	一二〇〇	一二〇〇
平均	一一〇	一一〇	一一八	一一八	一二〇〇	一二〇〇

三 倫敦

倫敦ニ於ケル最近三箇年間ノ各月噸當市價ハ左ノ如シ (マイニング、ジョーナル)

月別	一九一五年					一九一六年					一九一七年				
	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月
一月	一五六・五五〇	一七六・九二五	一八〇・一四一	一六六・二二五	一六二・六七五	一七五・五四八	一八一・二〇七	一九三・六〇九	一九九・七三六	一九六・五一一	一八五・八一三	一九八・九七四	二〇七・四四三	二二〇・一七一	二四五・一一四

六	七	八	九	十	十	十	平
月	月	月	月	月	月	月	均
一七六六三六	一六七〇八〇	一五一四四〇	一五二六二五	一五一五五五	一六七六七〇	一六七〇〇〇	一六四七二〇
一七九四六六	一六八三三七	一六九八七〇	一七一三四五	一七九三〇七	一八六九三三	一八三三六八	一八二〇九六
二四二〇八三	二四二一八一	二四三九七八	二四四〇三八	二四七四六七	二七四九四三	二九八五五六	二七五五六三

二〇

即チ一九一五年ハ噸當一六四磅七一ナリシモノ一九一六年ニハ一八二磅〇九六トナリ一九一七年ニハ更ニ二三七磅五六三ニ進ミ之ヲ一九一五年ノ市價ニ比スルトキハ約一四五倍ノ騰貴ナリ次ニ一箇年間ノ市價ニ付テ見ルニ一九一五年ニ於テ二三六ノ三箇月間ハ高値ヲ保チ殊ニ三月ハ一八〇磅臺ヲ突破セシモ八月ヨリ十月ニ互リテ一五二磅前後トナリ平均市價ニ比シテ十一月乃至十二磅ノ開ヲ生シ市況振ハサリシモ十一月以降ハ市價漸ク回復シ一六七磅ヲ示スニ至レリ

一九一六年ノ最高ハ四月最低七月其ノ差三一磅三七九ニシテ一箇年ヲ通シテ三・四ノ變化アリ即チ一月ヨリ漸次昂騰シテ四・五月頃頂點ヲ示シ六七・八月ハ低落シ

九月ヨリ市價持直リテ十二月ニハ平均市價以上ノ相場ヲ示セリ

一九一七年ニハ五月ヲ除ケハ市價ノ變動ハ極メテ正規ニシテ一月ニ於テ一八五磅八一三ナリシモノ漸次上騰シテ十二月ニハ二九八磅五六トナリ一月市價ニ比シ約五割五分ノ騰貴ナリ

四、紐育

紐育ニ於ケル最近二箇年間噸當各月市價ハ次ノ如シ (マイニング、ジヨートナル)

月	別	一九一六年	一九一七年	月	別	一九一六年	一九一七年
一	月	一九六七二八	一三三二七八四	八	月	一八二八二九	二九五二五五
二	月	二〇〇九六三	二四二二三一	九	月	一九四三九〇	二八九九一四
三	月	二三八六三六	一五六二二七二	十	月	二〇七七〇七	二九一七六四
四	月	二四〇九三六	一六三三三三三	十	月	二〇七七〇七	二五二三三三
五	月	二三三三三三	一五二九八八	十一	月	二〇七七〇七	二〇七七〇七
六	月	一九八八四七	一九二二五二	十二	月	二〇四六五〇	四一〇七一〇
七	月	一八一三一九	二九四七七	平均	均	二〇四六五〇	二八四五五九

右表ニ依レハ一九一六年ニ於ケル相場ノ變動ハ一月ヨリ漸次上騰シテ四月ニハ

二四〇磅九三六トナリシモ五月ニ入りテ稍下落シ七月ニハ一八一磅三一九トナ
 レリ然ルニ十月ニ至リ市況漸ク活況ヲ呈シ一二月ト略同様ノ相場ヲ保ツニ至レ
 リ
 一九一七年一月ニ於テ相場ハ俄然暴落シ前年十二月ニ比シテ噸當約六十八磅ノ
 開キヲ生セリ然ルニ二月ニハ一躍二四二磅二三一トナリ一月ニ比シ約八割ノ大
 暴騰ヲ爲シタリ
 其ノ後市價ハ上騰ノ一方ニシテ殊ニ五月ニハ噸當約三〇磅十一月ニハ更ニ六十
 磅ノ暴騰ヲ爲シ十二月ニハ既ニ四一〇磅七一〇トナリ一月ノ相場ニ比スレハ實
 ニ三一五倍加スルニ至レリ又一箇年平均市價ハ二八四磅五五九ニシテ前年ニ比
 シ約三割九分ノ高値トナレリ
 最後ニ紐育及倫敦ニ於ケル最近二箇年ノ市價變動ノ割合ヲ比較スルニ倫敦ニ在
 リテハ二箇年間ニ約三割一分紐育ニ在リテハ三割九分ノ騰貴ニシテ噸當市價ニ
 付キテハ紐育ハ倫敦ニ比シテ一九一六年ニハ二二磅五五四ニシテ一九一七年ニ
 ハ四六磅九九六ノ高値ナリ

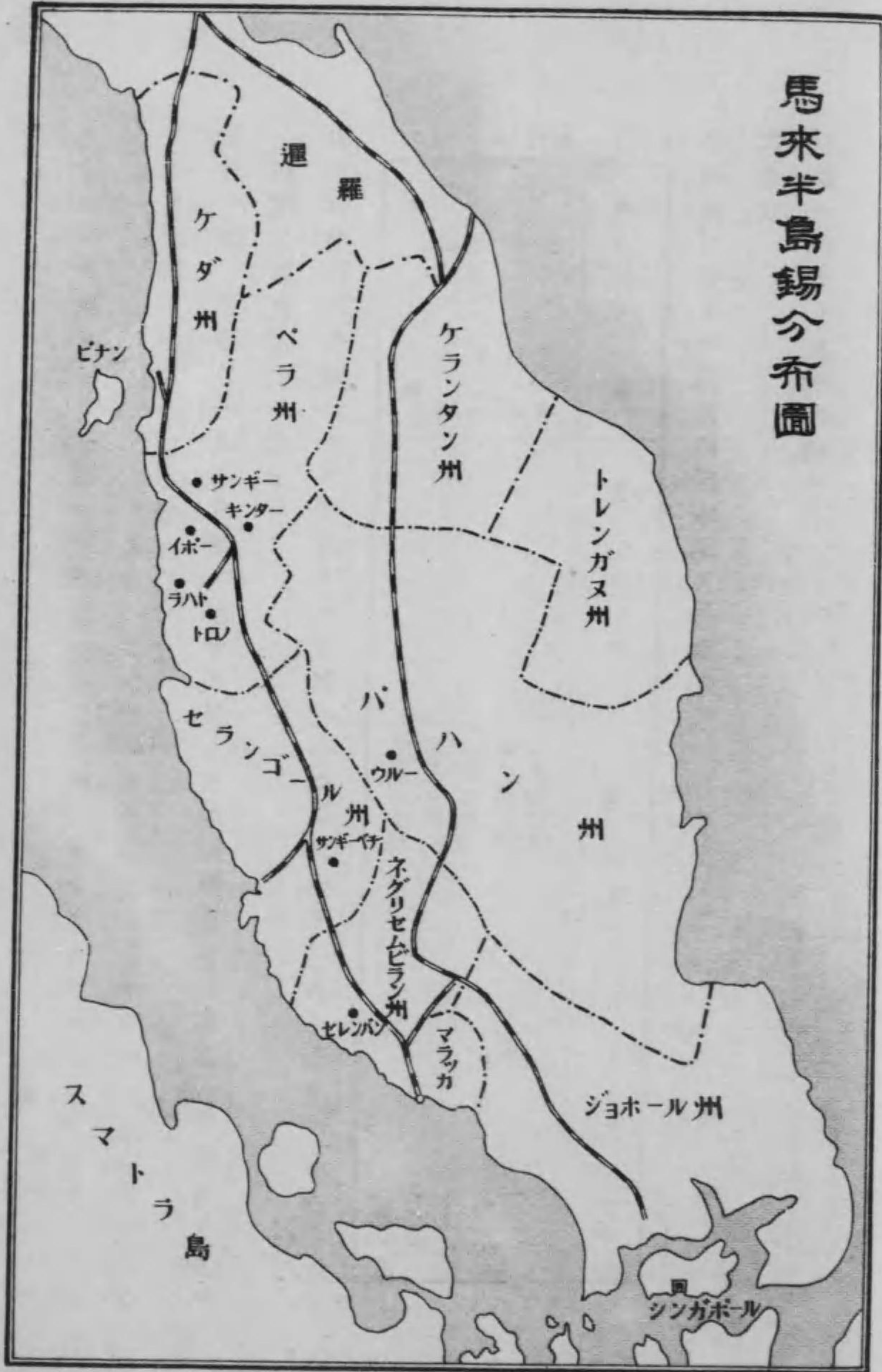
又一箇年ノ變動ニ付キテ見ルニ一九一六年ニハ市價高低ハ兩市場トモニ比例シ
 最高四月最低七月ナリ然レトモ其ノ差額ハ倫敦ニテ三一磅三七九ナルニ紐育ニ
 テハ五九磅五四五ニシテ其ノ懸隔ノ甚シキヲ知ルヘシ
 一九一七年ニテハ必スシモ一致セスシテ倫敦ニテハ五十一ノ兩月ヲ除キテ相場
 ハ順調ナル經路ヲ辿リシモ紐育ハ一月ニ於テ暴落シ二五十一月ノ三回ニ互リテ
 大暴騰セリ
 之ヲ要スルニ兩市場ノ市價ノ變動ハ絶對的ニ一致スルニ非スシテ且ツ市價ハ常
 ニ紐育ニ於テ高値ナリト謂フラヘシ

第九章 馬來半島ニ於ケル錫ノ狀況

一 産額

馬來半島ニ於テハ隨所錫ノ産出アリ即チ左圖ノ如ク同半島ニ於テハ殊ニ西半部
 最多ク其ノ内「ベラ」州ヲ以テ第一トス「ベラ」ハ馬來語ニテ銀ノ意ナリ蓋シ當初錫ノ
 發見者カ錫鑛ヲ誤認シテ銀鑛ト爲セシニ基因スルモノナラン「ベラ」州ニ次ク「セ

馬來半島錫分佈圖



ランゴール州、バハン州及ネグリセムビラン州トス今、ミネラル、インダストリー及「マインニング、ジョーナル」ニ依リ一九一三年ヨリ一九一七年ニ至ル五箇年間ノ産額ヲ州別ニ示セハ左ノ如シ

産地	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
ペラ州	四九三、七五三	四七九、六二二	四六六、六二四	四五四、六六五	四一四、〇〇三
セランゴール州	二五二、七六五	二四四、六六五	二三四、一五五	二〇五、六四九	一八四、二二八
ネグリセムビラン州	三六八、二二二	三五九、〇〇〇	二〇九、〇〇〇	一五二、三三八	一一一、三三一
バハン州	五八七、九一一	六三七、七三三	六三三、九八一	五八四、四六四	五八、七三三
合計	八四二、一三〇	八二三、九〇九	七八五、六七〇	七三四、〇一六	六六九、一九五

右表ニ依レハ同半島ニ於ケル錫産額ハ漸次減少セリ即チ一九一三年ノ八十四萬二千擔ハ翌年ニ八十二萬三千擔トナリ千九百十五年ニハ更ニ七十八萬五千擔ニ減シ一九一六年ニハ七十三萬四千擔トナリ而シテ一九一七年ニハ更ニ六十六萬九千擔ニ減少シタリ之ヲ一九一三年ニ比スルトキハ約十五萬擔二割一分ノ減少ヲ爲セリ而シテ此ノ減少ノ原因ハ種々アルヘシト雖同半島ニ於ケル勢力不足ノ



結果ニ外ナラサルカ如シ
二、勞力

今同地ニ於ケル最近四箇年間ノ採鑛勞力ヲ比較スレハ次ノ如シ

年次	苦力數	歩	合
一九三一年	二二五、四〇五		一〇〇
一九三四年	一七一、六八九		七六
一九三五年	一六四、四五七		七三
一九三六年	一三九、一四三		六一
平均	一七五、一七四		七七、五

即チ毎年苦力ノ減少セルヲ知ルヘシ殊ニ一九一六年ヲ一九一三年ニ比スルトキハ四割ノ苦力減少ヲ爲セリ

更ニ一九一五年及一九一六年ノ兩年ニ於ケル除砂用苦力(撰鑛苦力)ヲ加算シタル合計ノ比較ヲ示セハ左ノ如シ (ミネラル、インダストリ)

州名	一九一五年		一九一六年		増減割合
	採掘苦力	除砂苦力	採掘苦力	除砂苦力	
ベラ	九四八五	九六六七	八二五三	八四八八	△
セラ	五二一〇	四九四六	四三三九	四一九五	△
ネグリ	六〇一	四二九	四三九九	四八七二	△
セム	一〇六四	七三〇	八八二	九六七二	△
ピラ	一〇六四	八七	一四五六	九六七二	△
合	一六四四七	一五八五九	一八〇二六	一七〇〇七	△

(△減少○増加)

即チ一九一六年ハ前年度ニ比シテ約一割五分ノ減少ヲ爲セリ尤モ之ヲ州別ニ見ルトキハ「ネグリセムピラ」州ノ三割三分減最大ニシテ「セラ」州ノ一割七分「バハ」州ノ一割六分「ベラ」州ノ一割三分ノ順序ナリ

三 採掘會社

英領馬來半島ニ於ケル採錫會社ノ概況ヲ表示スレハ次ノ如シ(一九一八年マイニ)

社名	設立	資本金	礦區所在	礦區面積	產額	
					一九一六年	一九一七年

セレン	マイニ	一八九七年	二四〇〇〇	ネグリ	一三三	不詳
ブレンドン	マイニ	一九〇〇年	五〇〇〇〇	セラ	九二	不詳
キン	マイニ	同	一一〇〇〇〇	ピラ	一三〇	不詳
トロー	マイニ	一九〇一年	一七〇〇〇	同	一三〇	不詳
ブシ	マイニ	一九〇四年	一一〇〇〇〇	同	一五	不詳
ラン	マイニ	一九〇五年	一〇〇〇〇〇	同	六七〇	不詳
ラハ	マイニ	一九〇六年	一一〇〇〇〇	同	二六三	不詳
テ	マイニ	一九〇七年	九〇〇〇〇	同	四五四	不詳
ブシ	マイニ	同	一〇〇〇〇〇	同	一三〇	不詳
シ	マイニ	同	五〇〇〇〇	同	一三〇	不詳
ク	マイニ	同	一〇〇〇〇〇	同	一三〇	不詳
ペン	マイニ	同	一〇〇〇〇〇	同	一〇	不詳
マ	マイニ	一九一一年	一一〇〇〇〇	同	一〇	不詳
ト	マイニ	同	一〇〇〇〇〇	同	一〇	不詳
コ	マイニ	一九一二年	三九〇〇〇〇	同	一八四三	不詳

社名	資本金	当期純益金	前期繰越金	合計	拂込資本に對スル利益割	配當額	減価支出	其他處	後期繰越金
イボーチン	八九六〇〇	九、六六六	—	九、六六六	一〇・七	九、六六六	—	—	—
キンダーチン	一一〇、〇〇〇	一七、六五五	—	一七、六五五	一五・九	一七、六五五	—	—	—
マラヤンチン	一一一、〇〇〇	五八、二七〇	七、〇〇八	六五、二七八	五八・二	六五、二七八	—	—	—
ドレザング	一〇〇、〇〇〇	一七、三三三	一、三三八	一八、七二一	一八・七	一八、七二一	—	—	—
ラム	一〇〇、〇〇〇	一七、三三三	一、三三八	一八、七二一	一八・七	一八、七二一	—	—	—
平均	一〇〇、〇〇〇	一七、三三三	一、三三八	一八、七二一	一八・七	一八、七二一	—	—	—

(ロ) 一九一七年收支計算

社名	資本金	当期純益金	前期繰越金	合計	拂込資本に對スル利益割	配當額	減価支出	其他處	後期繰越金
チエンドリアン	四一、〇〇〇	九、九二五	—	九、九二五	一〇・三	九、九二五	—	—	—
アイトリス	一一〇、〇〇〇	一〇、二二二	一、一四〇	一一、三六二	一〇・二	一一、三六二	—	—	—
ハイドラリツクチン	八九、〇〇〇	九、一四一	—	九、一四一	一〇・二	九、一四一	—	—	—
イボーチン	一一〇、〇〇〇	一一、三六二	—	一一、三六二	一〇・三	一一、三六二	—	—	—
キンダーチン	一一〇、〇〇〇	一一、三六二	—	一一、三六二	一〇・三	一一、三六二	—	—	—
マラヤンチン	一一一、〇〇〇	五八、二七〇	七、〇〇八	六五、二七八	五八・二	六五、二七八	—	—	—
ドレザング	一〇〇、〇〇〇	一七、三三三	一、三三八	一八、七二一	一八・七	一八、七二一	—	—	—
ラム	一〇〇、〇〇〇	一七、三三三	一、三三八	一八、七二一	一八・七	一八、七二一	—	—	—
平均	一〇〇、〇〇〇	一七、三三三	一、三三八	一八、七二一	一八・七	一八、七二一	—	—	—

以上六會社ノ平均拂込資本金ハ十萬七千八百八十三磅ニシテ一九一六年ニハ一割九分三厘ノ收益ナリシモ一九一七年ニハ二割一分三厘ニ増加シ約二分ノ増益ヲ示シタリ

之ヲ各社別ニ見ルニ成績ノ最優良ナリシハ「マラヤンチン、ドレザング會社」ニシテ最近二箇年ノ平均收益ハ四割四分二厘ニシテ此レニ次ク「キンダーチン、マイネス」會社ノ一割七分九厘「ラム」會社ノ一割五分九厘トス之ニ反シ成績不良ナリシハ「アイトリス、ハイドラリツクチン」會社ニシテ一九一六年ニハ僅ニ九分一厘一九一七年ニハ稍増加シテ一割一厘トナリシモ尙平均九分六厘ノ收益ニ過キス

五 貿易

海峽植民地ニ於ケル最近三箇年間ノ錫及錫鑛ノ輸出入狀況ハ次ノ如シ(海峽植民地年報)

年次	錫		錫	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一九一五年	數量 二八、三三三 價額 一、一七九、九七九	數量 一、一五九、六四四 價額 九、一五九、九〇一	數量 一、三〇、一七七 價額 一、〇一、一四一	數量 一、三〇、一七七 價額 一、〇一、一四一
一九一六年	數量 一〇〇、〇〇〇 價額 一、一七九、九七九	數量 一、〇九八、八八一 價額 九、七三九、七三〇	數量 一、三〇、一七七 價額 一、〇一、一四一	數量 一、三〇、一七七 價額 一、〇一、一四一
一九一七年	數量 一〇〇、〇〇〇 價額 一、一七九、九七九	數量 一、〇九八、八八一 價額 九、七三九、七三〇	數量 一、三〇、一七七 價額 一、〇一、一四一	數量 一、三〇、一七七 價額 一、〇一、一四一

本表ニ依リテ見ルニ一九一五年ニ於ケル錫ノ輸入ハ三萬八千擔此ノ價額二百八十萬弗ナリシモ翌年ニハ一躍シテ十萬擔ニ激増シ更ニ一九一七年ニハ十萬七千擔ヲ算セリ之ヲ一九一五年ニ比スレハ約三倍ノ活況ヲ呈セリ

錫ノ輸出狀況ヲ見ルニ一九一五年ニ百十五萬擔ナリシモ一九一六年ニハ百十萬擔トナリ一九一六年ニハ更ニ減シテ百七萬六千擔ニ下リ三箇年間ニ約八萬五千擔ヲ減少セリ

更ニ錫鑛ニ在リテハ一九一五年ノ輸入數量ハ三十六萬三千擔ナリシモノ一九一六年ニハ百三十八萬六千擔トナリ一九一七年ニハ稍減少シテ約百二十四萬一千擔トナリシモ尙一九一五年ニ比シテ三四倍ノ増加ヲ示セリ次ニ同地ヨリ錫鑛ノ輸出セラル、ハ極メテ少ナク最近三箇年間ノ中ニテ最モ輸出盛ナリシ一九一七年ニ於テ僅ニ六百擔ニ過キス而シテ是等ノ錫及錫鑛ハ何レノ地方ヨリ輸入セラ

ル、ヤヲ見ルニ一九一七年ノ狀況ハ左ノ如シ(海峽植民地年報)

輸 入 先	錫		鑛	
	數	價	數	價
英領印度及緬甸	四〇六	四八、五〇〇	一、三三二	三、四八七
香港	九六、一〇一	一〇、六三三、〇〇〇	七、五八〇	五、三三三
馬來聯邦			七、八八七	五、四七〇
馬來亞			二〇、三九三	一、三四八
南亞利			五、三八〇	三、六〇七
南亞利			一、三二七	九、七三九
暹羅	七、六八七	七、七三三	一、九〇九	一、四三六
暹羅			八二五	四、九五〇
其他	一〇七、一九五	一一、四〇八、〇八三	一、二四〇、五六九	八、八八五
合計				一、六〇〇

輸 入 先	錫		鑛	
	數	價	數	價
英領印度及緬甸	四〇六	四八、五〇〇	一、三三二	三、四八七
香港	九六、一〇一	一〇、六三三、〇〇〇	七、五八〇	五、三三三
馬來聯邦			七、八八七	五、四七〇
馬來亞			二〇、三九三	一、三四八
南亞利			五、三八〇	三、六〇七
南亞利			一、三二七	九、七三九
暹羅	七、六八七	七、七三三	一、九〇九	一、四三六
暹羅			八二五	四、九五〇
其他	一〇七、一九五	一一、四〇八、〇八三	一、二四〇、五六九	八、八八五
合計				一、六〇〇

即チ錫及錫鑛輸入額ノ大部分ハ馬來聯邦ヨリ仕向ラレ錫ハ六割強錫鑛ハ九割餘ヲ占ムルモ今英領馬來半島ヲ除ケハ第一ノ仕入先ハ暹羅ニシテ錫ハ一割六分錫鑛七分ニ當レリ之ニ次クハ蘭領印度ニシテ同地ヨリノ錫輸入額ハ約一割一分ナ

更ニ海峽植民地ニ於ケル一九一七年ノ錫及錫鑛ノ輸出先ヲ示セハ左ノ如シ(海峽植民地年報)

輸出先	錫		鐵	
	數量	價額	數量	價額
英國	四四九四九八	四九六六二九七	六一	三六八七
英領印度及緬甸	二二九六七	二四八四〇五一		
錫蘭	一一九五	一三六六一八		
香港	四二〇八	三九四、二二六	一三五	四、〇〇〇
馬來聯邦	四五	三九四三	一三三	一三、一五〇
加那	一五一五	一五、一七〇〇		
澳洲	六七	七、五四〇		
埃及	一六八〇	一六五、五六六		
マウリテア	一六	一、六〇〇		
南亞弗利加	二一九	二二、九〇七		
佛蘭西	一〇〇四七〇	一〇六、一三、一四五		
伊太利	三八〇九四	四、一四、五七二		
露西亞	一八一八八	一八五、四六〇		
西班牙	五九六九	六二、四九〇		
支那	八七五	九三、九八二		
佛領印度支那	三三〇	三三、八九〇		
日領印度支那	二八、二一六	三、〇〇六、八七三		
比律賓及スル	四、二〇九	三七、〇〇〇		

運米	其他	合計
一、二二二	一〇、七五七、一四	一一、九七九、三六
三九、二二七	四、六二四	四三、八五一
二、四六二、九	五九五、〇九六	三、〇一八、〇八六
二七五	六〇四	八七九
一一、二五六一	三三、三九八	四四、六五四

即チ錫ノ最大輸出仕向國ハ英國ニシテ全輸出額ノ四割一分ヲ占メ米國ノ三割六分之ニ次キ其ノ他ハ佛蘭西伊太利日本ヲ主ナルモノトス
 六馬來半島ニ於ケル邦人ノ錫鑛業
 馬來半島ニ於ケル邦人ノ錫鑛業狀況ニ付大正六年末現在ノ概況ヲ表示スレハ次ノ如シ (南洋ニ於ケル邦人ノ企業ニ依ル)

所在	地	鑛區名	經營者	創業年	鑛區面積
セララ州	アンパンヒツチヤ	森川錫鑛	森川又五郎	一九一六年	一、五
同州	コ	吉村錫鑛	吉村仁德	一九一四年	一、五
ハラ州	チーモ	浦田錫鑛	浦田志徳	一九一五年	一、五
セララ州	ゴル州	江浦錫鑛	江浦桃太郎	一九一〇年	一、五
ケダ州	スンガ	松本錫鑛	松本良助	一九一三年	一、五
同州	チヤンロン	小川錫鑛	小川銀太郎	一九一五年	一、五

以上ハ孰レモ個人經營ニシテ且ツ護謨園ヲ兼業トスルモノ多シ此ノ外久原鑛業部ニ於テハ三十萬圓ヲ投シテ新嘉坡ニ南洋調査所ヲ設ケ同半島ノ錫ウルフラム鑛ノ探掘ヲナシツ、アリト謂フ

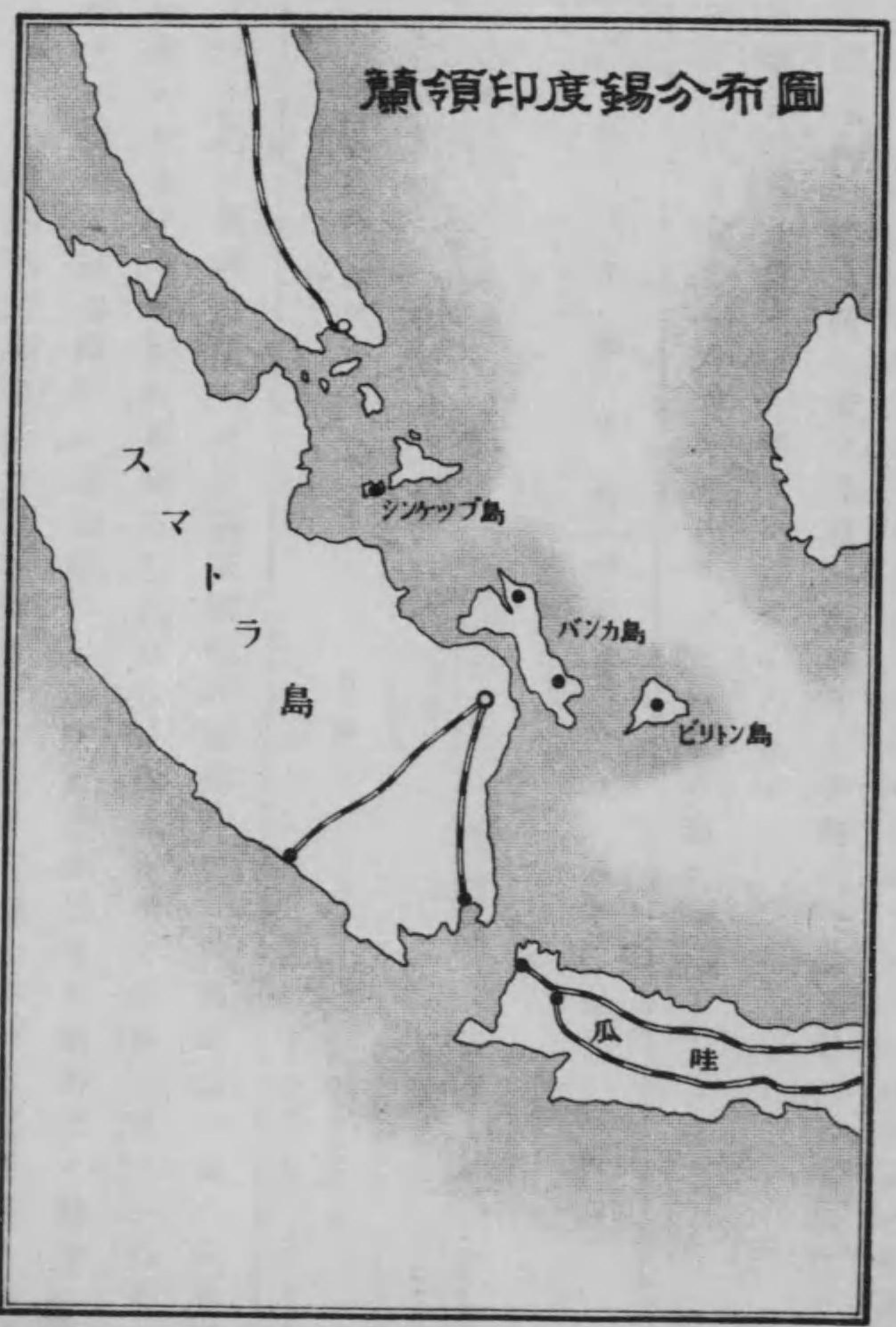
第十章 蘭領印度ニ於ケル錫ノ狀況

一 產地及探錫會社

錫ハ爪哇島西部及ヒスマトラ島ニモ産スレトモ現時主トシテ探掘セラレツ、アルハ「パンカ」「ピリトン」「シンケツブ」ノ三島ナリ(左圖參照今是等三島ノ最近五箇年ノ産額ヲ擧レハ左ノ如シ(一九一四年迄南洋協會以降)

一九一二年	一九一七噸
一九一三年	一九、九一〇
一九一四年	一九、九二〇
一九一五年	一九、五二三
一九一六年	一九、五四八

「パンカ」島ハ廣袤一萬二千二百四十平方料ニシテ鑛山ハ多ク北部東部ノ海岸ニ位





シ鑛石ハ多ク沖積層及小丘ノ傾斜地ニ現ハル而シテ同島ノ採錫業ハ前述ノ如ク一九〇七年以降官營ニ屬シ採鑛ニ從事スル労働者ハ彼等ヲシテ請負ハシムルカ又ハ直接政府監督ノ下ニ働カシムルモノトス
 今バンカ島錫鑛業ニ關スル統計ヲ示セハ左ノ如シ(關領印
 年度鑑)

年	次	鑛山數	労働者數	產出額	價	額純	益
一九〇〇年	一	三六二	一九八二三人	一六、〇八三	二四五二〇、九五三	不詳	不詳
一九〇一年	一	三六六	二二、二九二	一四、九一〇	三三、九六七、九六六	二五、九四〇、三九七	不詳
一九〇二年	一	三七六	二二、二九六	一四、五六八	三九、三八七、六〇六	三〇、四三三、六〇〇	不詳
一九〇三年	一	三六二	二二、四三六	一五、一一二	三六、五五六、六七六	二五、一一九、〇七四	不詳
一九〇四年	一	不詳	不詳	一三、九七二	一九、〇三七、四七二	不詳	不詳
平均	均	三六六	二二、二二二	一四、九三一	三〇、六九六、一三五	二七、一七六、九〇三	不詳

「ピリトン」島ノ錫鑛ハ主トシテ鑛脈鑛床ノ状態ニアルハ南洋錫ニ稀ニ見ル所ナリ採錫業ハ「ピリトン」會社(資本金五百萬盾本店和蘭海牙)ノ經營ニ係リ一八九二年ニ政府トノ協議ノ結果會社ハ產出額ノ八分ノ五ノ利益ヲ享有スルノ條件ニテ採掘權ヲ獲得シ且採掘期限ヲ三十五箇年ト定メタリ採掘ハ専ラ支那労働者ニ請負ハ

シム

「シンケツプ」島ニハ同名ノ探錫會社(資本金四百萬盾)アリテ馬來人ヲ使役シテ探錫ヲ爲セリ鑛區ハ三十七萬八千三百三十七「パウ」ノ面積ヲ有シ其ノ中二十六萬千八百三十七「パウ」ヨリ得タル利益ノ四分ヲ特許稅トシテ蘭領印度政府ニ上納ス同島ノ錫鑛區ノ特徵トスル所ハ陸坑ノ外ニ海底鑛區ヲ有スルニ在リ終リニ一九一〇年ヨリ一九一四年ニ至ル「ピリトン」及「シンケツプ」會社ノ錫產額ヲ表示セハ次ノ如シ(蘭領印度年報)

年次	シンケツプ會社		政府上納額	
	產出額	噸	額	噸
一九一〇年	四、一〇〇	噸	二、二八六、九六一	噸
一九一一年	三、七五七	噸	七、八五八、七七五	噸
一九一二年	四、〇三四	噸	一、九三八、〇六二	噸
一九一三年	四、一八〇	噸	八、一九一、八四	噸
一九一四年	五、一二五	噸	三、二二五、七四六	噸
平均	四、一四一	噸	六、三〇	噸

二 收支計算

蘭領印度ノ探錫ハ前述ノ如ク「バンカ」島ハ官營ニ屬シ私營ニ屬スルモノハ「ピリトン」及「シンケツプ」島ナリ今「シンケツプ」島ニ於ケル最近二箇年間ノ收支計算ヲ掲レハ左ノ如シ(通商公報)

年次	陸坑收入		海底坑收入		利子收入		其他收入		總收入		總支出		純利益	
	額	盾	額	盾	額	盾	額	盾	額	盾	額	盾	額	盾
一九一五年	二五〇、八一五	盾	六〇五、七五四	盾	二四、三九七	盾	一、八五五	盾	八八二、八二一	盾	二八六、七一一	盾	五九六、一〇八	盾
一九一六年	二九七、七二四	盾	六五二、七三五	盾	二五、九一六	盾	三、五七五	盾	九七九、九五〇	盾	三一九、二九七	盾	六六〇、六五三	盾

之ニ依リテ見レハ同會社ノ利益ハ六七十萬盾ト認ムヘク資本金四百萬盾ニ對シ約一割六分ノ收益トナルモノナリ

三 貿易

蘭領印度ニ於ケル最近五箇年ノ錫ノ輸出狀況官、私人ヲ含ムハ左ノ如シ(蘭領印度貿易年報)

年次	錫		鐵	
	均年	年	均年	年
一九一五年	二五、〇四一	一九、一〇三	二、二五七	三、二四四
一九一六年	一四、九四三	二一、七六四	四、九二九	五、二七三
一九一七年	一四、三二二	一九、〇三五	六、三八四	四、四一七

右表ニ明カナル如ク錫ノ輸出狀況ハ一九一三年ヨリ一九一七年ノ五箇年間ニ於テ一進一退セリト雖概シテ輸出減退ノ傾向ナリ之ニ反シ錫鐵ノ輸出ハ逐年確實ニ増加シ一九一七年ハ一九一三年ニ比シテ約三倍ノ輸出ヲ爲セリ而シテ其ノ最近三箇年ノ錫ノ私人輸出先ヲ示セハ左ノ如シ(關領印度貿易年報)

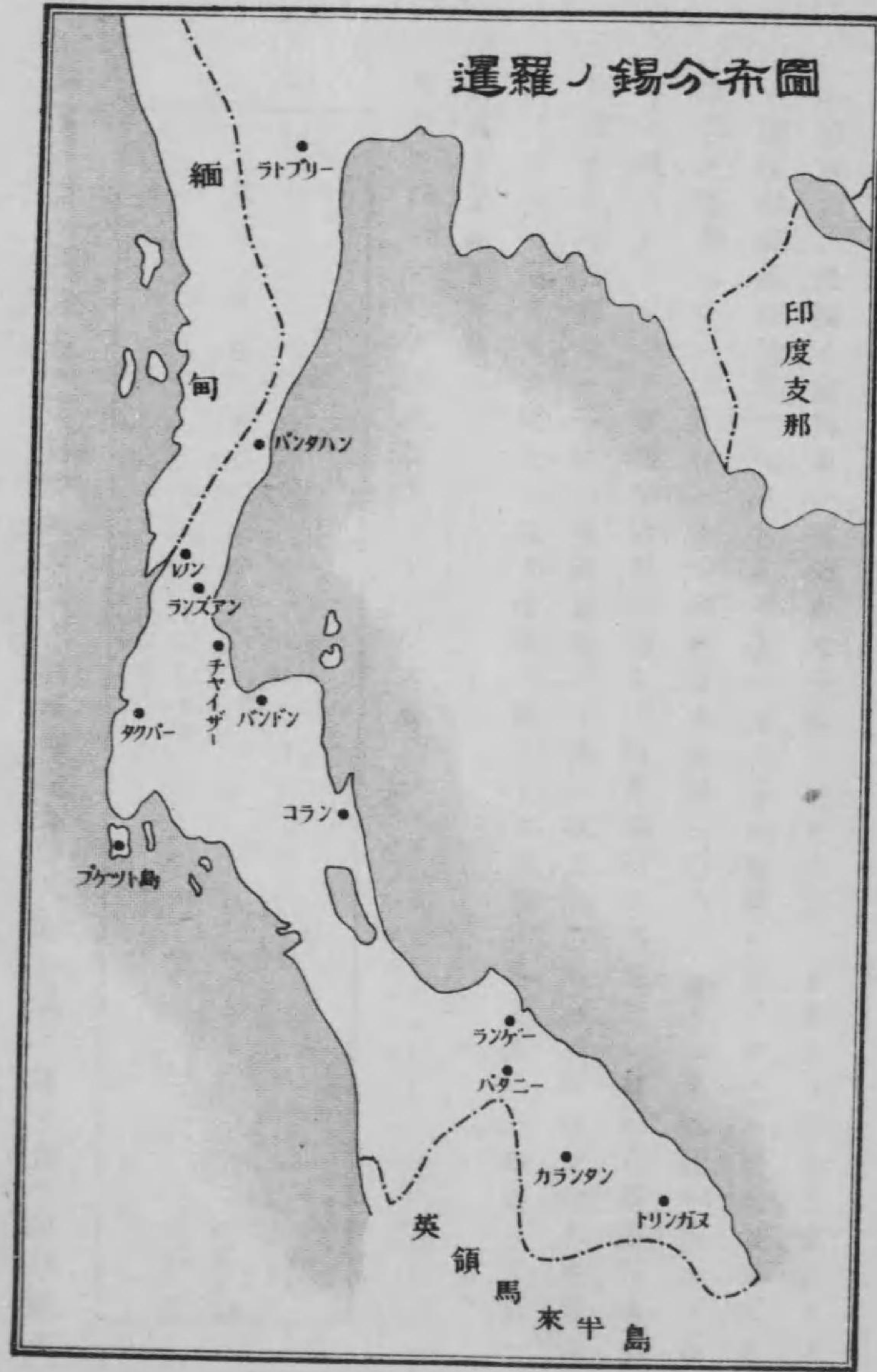
仕向先	一九一五年		一九一六年		一九一七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
英國	三、二四六	六、四一五	二、八六一	六、二二八		
佛蘭西	一、八八九	三、七三三	一、六〇九	三、四四五		

仕向先	一九一五年		一九一六年		一九一七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
丁抹	三、八六二	四、三九七	六、三	一、三四		
米合衆國	三、八七一	七、六五〇	一〇、五八七	二二、六七四	一一、二九七	三、四六一八
新嘉坡			一、七五〇	三、七四六	八〇四	二、一六五
大連、朝鮮、浦潮			四〇八	八七七		
日本	一〇一	一、九九	七四三	一、五九一	一、〇五四	二、九六八
和蘭	二二七	四四五				
其他	一	一				
合計	一、三二八	二、二八四〇	一、八〇三	三、八五九六	一、四二五七	三、九八五五

即チ一九一五年ノ私人輸出額ハ一三、一八七噸ニシテ此ノ中新嘉坡ニ仕向ラレタルモノ約二割九分ニシテ米國又之ト伯仲ノ間ニ在リ英國ハ稍下リテ二割五分弱佛國ノ一割六分ヲ主ナルモノトス

一九一六年ニハ前年ニ比シテ約四千八百噸ヲ増加シ一方仕向先ニ付キテ見ルニ米國ハ數量ニ於テ前年ノ約二七倍輸出額ノ五割八分ニ當レリ

日本ハ敢テ數量多キニ非サレトモ増加ノ割合ニ於テ第一位ヲ占メ一九一五年ニ僅カニ一〇一噸ナリシモノ一九一六年ニハ七四三噸トナリ約七四倍加スルノ活況ヲ呈セリ英佛國ハ何レモ多少減少シ殊ニ前年ノ第一華客タリシ新嘉坡ハ五割



五分ノ減少ヲ來セリ一九一七年ニハ再ヒ輸出減少シテ一四、一五八噸トナリ此ノ
 中米國ハ約一二、三〇〇噸ニシテ前年ヨリ一七、〇〇〇噸増加シ全輸出額ニ對シ八割
 七分ヲ占ム日本ハ一〇、五四噸トナリ之ヲ一九一五年ニ比スレハ實ニ十倍以上ノ
 増加トナリ遂ニ第二ノ仕向地タルニ至レリ新嘉坡ハ前年ニ比シ更ニ半減シ英佛
 國ノ如キハ全ク輸出絶エタルハ注目スヘキコトナリ

第十一章 暹羅ニ於ケル錫ノ狀況

一 産地及採錫會社

暹羅ニ於ケル著名ナル錫産地ハ何レモ馬來半島ノ北方ニ位セリ(左圖參照)
 即チ現ニ探掘シツ、アル錫鑛中東海岸ニテハ「ラドブリー」「バンタハン」「ランズアン」チ
 ヤ「イザイ」「バンドン」「ラコン」「バタニー」「ランケー」「ラーマン」「カランタン」「トリ
 ング」「バリス」地方
 ニシテ西海岸ニアリテハ「レノンダ」「タリバー」「バンガ」「ブケット」「トラング」
 「バリス」等ナリ又西海岸ハ東海岸ニ比シ錫ノ産額多ク就中「ブケット」島ハ暹羅隨一ノ錫
 産地ナリ尙將來ノ錫産地トシテ有望視セラル、ハ「ケダ」「ラーマン」「バタニー」「レ
 ノン



グ地方ナリ同國ノ採錫業ハ英領馬來半島ト同シク始ト支那人ニ依リテ壟斷セラ
 レ採錫撰錫術ハ幼稚ナル支那式ニ依ルモノ多シ同國ニ於テ初メテ新式法ニ依リ
 採錫ニ從事セシハ「ラーマンチン會社」資本金四〇、〇〇〇磅ニシテ同社ハ一九〇五
 年ニ設立セラレタリ爾後事業熱勃興シ一時亂掘時代ヲ現出シ會社ノ新設引續キ
 テ起リシモ錫相場ハ一擔六十弗前後ニ下落シ收支相償ハス良鑛地モ却テ荒廢ス
 ルノ窮境ニ陥リシ爲會社ノ設立中絶ノ觀アリタリ然ルニ一九一三年頃ヨリ再ヒ
 活況ヲ呈セリト謂フ

今最近四箇年間ノ錫產額ヲ示セハ左ノ如シ(マイニング、インダストリ及マイニング、ジョーナル)

年	次	產	年	次	產
一九一四年		六、八〇〇 <small>噸</small>	一九一七年		八、四五二 <small>噸</small>
一九一五年		七、八〇〇	均		八、〇一三
一九一六年		八、九九八			

暹羅ニ於ケル主ナル採錫會社及其ノ錫產額(一九一八年一月ニ於ケル一箇月間)ヲ

ホセハ左ノ如シ(マイニング)

社名	設立	資本金	礦區面積	産額
ライマンチン	一九〇五年	400,000	英畝	300
サイミスチン、シンジケ	一九〇六年	110,000	130	240
トシカハーバー、チンド	一九〇七年	250,000	—	2100
レヂンガ	一九一三年	150,000	—	200
デーブツク、ドレヂンガ	同	100,000	400	200
レノングチン、ドレヂンガ	同	115,000	—	—
カトウデーブツク	同	100,000	40	—
チンベトング	同	72,250	—	—
パンゲノンバレー	同	—	—	—
合計		815,000	110	6,598

(○全額拂込△拂込額)

而シテ是等探錫會社ノ成績ニ付盤谷駐在米國副領事「カールソンセン」氏ノ發表スル所ニ據レハ一九〇八年ニハ僅ニ一「ドレヂヤ」ヲ有シ産額四六七擔ニ過キサリ

シモノ一九一七年ニハ十六「ドレヂヤ」産額四七、二九八擔ニ達セリト謂ヘリ。

二、收支計算

暹羅ニ於ケル最近二箇年間ノ探錫會社ノ收支計算ヲ舉レハ左ノ如シ(マイニング)

社名	拂込資本金	当期純益金	前期繰越金	合計	拂込資本金ニ對スル利益割	配當額	減價金	其他支出	繰越金
サイミスチン、シンヂケ	110,000	28,800	7,500	117,500	26%	30,720	—	—	86,780
トシカハーバー	100,000	60,600	21,000	121,600	60%	72,960	—	—	48,640
レノングチン、ドレヂンガ	100,000	37,700	—	37,700	37%	14,069	—	—	23,631
平均	100,000	42,367	21,250	63,617	42%	26,849	—	—	36,768

ロ、一九一七年ノ收支計算

社名	拂込資本金	当期純益金	前期繰越金	合計	拂込資本金ニ對スル利益割	配當額	減價金	其他支出	繰越金
サイミス、シンヂケ	110,000	28,800	7,500	117,500	26%	30,720	—	—	86,780

平均	1,500,000	5,000,000	4,500,000	5,500,000	1,100,000	5,500,000
ドレンダング	1,500,000	5,000,000	4,500,000	5,500,000	1,100,000	5,500,000
平均	1,500,000	5,000,000	4,500,000	5,500,000	1,100,000	5,500,000

是ニ依リテ見ルニ一九一六年ニ於テ拂込資本ニ對スル利益割合ハ二割九分ニシテ一九一七年ハ四割一分五厘ナリ
 而シテ最近二箇年ヲ通シテ成績ノ優良ナリシハレノングチン、ドレヂング會社ニシテ利益割合ハ一九一六年ニハ三割七分七厘、一九一七年ニハ五割七厘ナリ而シテ其ノ他ノ二會社ハ成績伯仲ノ間ニ在リテ三割乃至二割五分ノ成績ナリ

三 貿易

暹羅ニ於テ錫ハ米ニ次ク主要輸出品ナレトモ其ノ產地ハ殆ント馬來半島内ニア
 ルヲ以テ盤谷港ヲ經由セス直チニ新嘉坡、彼南ニ輸出セラル、モノニシテ國境貿易ニ關シテハ統計ノ徵スヘキモノナシ尤モ暹羅ニ於テ產出スル錫ハ殆ント全部輸出セラル、カ故ニ產額即チ輸出額ト見テ大差ナシト謂フ次ニ掲クル表ハ盤谷ヲ經由セル錫ノ貿易狀況ヲ示セルモノナリ(通商公報)

品別	一九一五年		一九一六年		一九一七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
錫	1,191,212	1,313,630	1,603,919	2,699,511	6,566,333	3,691,668
錫鐵	3,447	18,050	4,677	22,105	1,777	39,673

次ニ盤谷ニ於ケル最近三箇年間ノ錫輸入ヲ國別ニ表示スレハ左ノ如シ(盤谷報)

仕入先	一九一五年		一九一六年		一九一七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
新嘉坡	56	851	27	302	52	487
香港	105	2,389	114	1,641	78	1,381
支那	2	41	2	270	5	278
日本	22	1,139	251	2,572	114	1,693
英國	227	8,234	18	1,567	21	1,758
印度	1	1	34	3,318	5	1,005
米	33	2,126	24	1,789	2	179
其他	351	26,980	472	25,107	277	39,673
合計	561	41,100	772	55,707	527	46,673

右表ニ依レハ一九一五年ノ輸入額ハ三五〇擔ニシテ主ナル仕入先ハ英國一二七

擔香港一〇五擔、新嘉坡五六擔トス。一九一六年ニハ前年ニ比シ約百二十擔ノ輸入増加シ、其ノ仕入狀況ヲ見ルニ日本ハ全數量ノ約五割三分ニシテ、一九一五年ニ二十一倍加セリ。

一方輸出減トナリシハ英國ニシテ僅ニ前年ノ五分ノ一ニ止マリ、新嘉坡又半減セリ。一九一七年ニ日本ヨリノ仕入額ハ一一四擔、香港七八擔ニシテ、何レモ五割以上ノ減退ナリ。只新嘉坡ハ前年ニ比シテ數量ニ於テ倍加セルモ僅々五二擔ナルヲ以テ結局全輸入額ハ二七七擔ニ下リ、一九一六年ニ比シ五割八分ニ過キス。

四、試掘及採掘

暹羅ニ於テ採錫業ニ從事セントスル者ハ一九〇一年制定ノ錫業條例ニ則リ先ツ試掘權ノ設定ヲ政府ノ職務管理者ニ出願スヘキモノトス。此ノ場合ニ於テ政府カ適當ト認メタルトキハ區域ヲ指定シ、其ノ區域内ノ官有地ニツキテ試掘權ヲ與フ而シテ、其ノ有効期限ハ一箇年ナルカ故ニ試掘者ニシテ作業ヲ繼續セントスル場合ニハ更ニ願書ヲ提出スヘシ。納稅ハ一箇年一味我一段四畝ニ付一錢我七十四錢四厘ナリ。

又別ニ獨占的試掘權アリ之ノ特許ヲ得ントスルモノハ試掘者ニ於テ任意ニ鑛區ヲ設定シ(但シ面積三〇〇〇味ヲ越ユルヲ得ス)願書ニ地方廳ノ證明書ヲ添ヘテ提出スヘシ。證明書ニハ出願人ノ設定セル鑛區カ既ニ何人ノ所有ニ歸シ居ルヤ否及其ノ土地カ從來如何ナル目的ニ利用セラレタルカヲ明細ニ記載セルモノナリ。若シ此ノ場合ニ鑛區カ私有地ナルトキハ土地收用法ノ適用ヲ求メ補償額ヲ協定シテ官廳ニ提出スヘシ。否ラサレハ政府ニ三名ノ民間委員ヲ指命シテ評價ヲ乞ヒ強制的ニ凡テノ撤退ヲ爲サシムルモノトス。何レノ方法ニ拘ラス試掘權ノ出願ニハ手数料ハ前納スルヲ要ス。

次ニ採掘權ノ認可ヲ得ルニハ政府ノ定ムル規定ニ依リテ願書ヲ鑛務管理者ニ提出スヘシ。而シテ願書ニハ手数料五十銖、鑛區ノ性質及其ノ地方ノ事情鑛區明細圖見本、錫鑛地方政廳ノ證明書及出願人カ採掘上充分ナル資本ヲ有スルコトヲ明示セル添書ヲ提出スヘシ。尙該法ニ依レハ鑛區面積ノ限度ハ鑛脈ニ於テ百味、沖積土ナレハ三百味ニシテ、借地年限ハ二十五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス。地代ハ年賦ニシテ鑛區ニ依リテ一定シ、年賦ノ半箇年分ハ前納スルモノトス。

附
本邦錫産額及輸入額

我國ニ於ケル錫産地ハ兵庫縣ノ生野鑛山、鹿兒島縣ノ錫鑛山及宮崎縣ノ見立鑛山等其ノ著名ナルモノナリ然レトモ其ノ産額ハ極メテ少量ニシテ到底國內需給額ヲ充スニ足ラサルヲ以テ年々二百萬斤内外ノ錫ヲ海外ニ仰カサルヘカラス今本邦錫産額及輸入額ヲ表示セハ次ノ如シ

年次	本邦産額	輸入額	年次	本邦産額	輸入額
大正二年	錫 同鑛 六五、一三八斤	錫 同鑛 一、五五六、七七六斤	同四年	錫 同鑛 五六、九四九斤	錫 同鑛 一、九一九、五四〇斤
同三年	錫 同鑛 一三五、九九七斤	錫 同鑛 一、六一一、八九九斤	同五年	錫 同鑛 四二、一四八斤	錫 同鑛 一、八三九、一九〇斤
	錫 同鑛 一六一、一八九斤	錫 同鑛 一、二八三、七〇三斤	同六年	錫 同鑛 三三、三三三斤	錫 同鑛 一、七三三、七〇一斤
	錫 同鑛 七、七〇三斤	錫 同鑛 一、二八三、七〇三斤			

次ニ最近三箇年ニ於ケル錫輸入先ニ付テ見ルニ左ノ如シ

最近三箇年本邦ノ錫輸入先

(大日本貿易年報)

仕入先	大正四年		大正五年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	三、九一八斤	三、九一八	三、九一八斤	三、九一八	三、九一八斤	三、九一八
香港	五、六〇〇斤	五、六〇〇	五、六〇〇斤	五、六〇〇	五、六〇〇斤	五、六〇〇
英領印度	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇
海峽植民地	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇
佛領印度	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
英領印度	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
米國	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
不來梅	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
合 計	一、九一八斤	一、九一八	一、九一八斤	一、九一八	一、九一八斤	一、九一八

仕入先	大正四年		大正五年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	三、九一八斤	三、九一八	三、九一八斤	三、九一八	三、九一八斤	三、九一八
香港	五、六〇〇斤	五、六〇〇	五、六〇〇斤	五、六〇〇	五、六〇〇斤	五、六〇〇
英領印度	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇
海峽植民地	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇	一、五〇〇斤	一、五〇〇
佛領印度	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
英領印度	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
米國	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
不來梅	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇
合 計	一、九一八斤	一、九一八	一、九一八斤	一、九一八	一、九一八斤	一、九一八

之ニ依リテ見ルニ我國錫輸入ハ大正四年ニハ百九十八萬九千圓大正五年ニハ稍減少シ大正六年ニハ三百七十八萬圓ヲ超エタリ輸入先ノ主ナルモノハ馬來産錫最多ク毎年全額ノ八割強ニシテ之ニ次クハ支那雲南産ノ錫ニシテ輸出全額ニ對シ大正四年ニハ一割六分次年ニハ一割二分大正六年一割ニシテ絶對數量ニ於テ敢テ減少セルニ非サルモ歩合ニ於テ右ノ如キ状態ナリ

四九	一五	頁	正誤表
二	八	行	
三〇〇	頓	誤	正
三〇〇〇	噸		

142A
466

終